

表1 協会の主な事業内容

- DXの普及啓発や技術導入支援のための会員制組織の運営
- 病院と企業のマッチング事業
- 表彰・日本病院DX推進協会アワード(病院による好事例)
- 調査研究事業
- 政策提言

このプロセスを通じて、病院と企業のスタッフ自身も成長していくでしょう。病院DXを進めていくためにはこのような考え方が求

められ、現場から学んだことを現場に還元していくことに本協会が役立てればと思います。

導入したテクノロジー、ソリューションの成果も含め、各病院でのDXの進捗について定期的に情報発信していきますし、オンラインでの講習会・研修会を行い信頼性の高いヘルスケア情報を提供していく協会でありたいと思っています。さらに、病院だけでなく、地域の介護施設や、地域のさまざまな団体とつながっていくことも大事なことで考えています。

換しながら、ヘルスケア領域での社会課題の解決と新しいビジネスモデルの創設に向け、少しでも貢献したいと考えています。まず、それぞれの病院がビジョンを発信しなければなりません。本協会がその発信の場となり、病院にはどんなニーズがあるか、企業側に情報共有していただければと思います。病院DXを推進していくうえで病院、企業、さらにそれぞれのスタッフが現場の課題を理解すること、解決策を提案するだけにとどまらず、ともに伴走しながらイノベーションに向けて行動していくことが大事です。

具体的なお事業内容としてはまず、デジタル・トランスフォーメーションの普及啓発と、それを可能にするような技術の紹介および導入支援を企業や導入病院の協力を得ながら取り組んでいきます。DXのプラットフォームづくりにはデジタルツールとAI活用が鍵を握りますが、病院と企業が連携し、協働で行動していけるようなフレームワークを構築していきたいと考えています。また、病院DXを安全に進めていくためのルールづくりにも関わっていきます。

新しいビジネスモデルを創設病院、企業の情報共有の場に
今、病院が転換点を迎えていることは間違いありません。デジタル技術の活用により病院を変革し、医療の質を向上させるとともに、病院自体のビジネスモデルも変えていくことも考えなければいけない時期にきています。地域において持続可能な医療を提供するためのエコシステムを構築する必要があります。

**地域の介護施設とも連携
若い世代の学びの場にも**

こうした取り組みの結果、好事例が生まれたときにはアワードでそれを共有していただき、より浸透を図るようにします。アワードについては2025年度からスタートする予定で、病院会員、協賛会員の皆さんに投票権を持っていただきます。



篠原直樹事務局長・理事

**病院と企業をマッチング
アワードで好事例を共有**

められ、現場から学んだことを現場に還元していくことに本協会が役立てればと思います。

導入したテクノロジー、ソリューションの成果も含め、各病院でのDXの進捗について定期的に情報発信していきますし、オンラインでの講習会・研修会を行い信頼性の高いヘルスケア情報を提供していく協会でありたいと思っています。さらに、病院だけでなく、地域の介護施設や、地域のさまざまな団体とつながっていくことも大事なことで考えています。

VUCA時代の頼れる羅針盤に

日本病院DX推進協会設立

病院・企業・教育の連携を図り
イノベーションを促進し
持続可能な医療システム構築へ

患者中心のケアモデルの推進や新たなデジタル技術の導入とイノベーションの促進により持続可能な医療システムの構築、さらに医療従事者の育成と教育を目的に、一般社団法人日本病院DX推進協会（代表理事＝石川賀代・社会医療法人石川記念会HITO病院理事長）が設立された。同協会の事務局長・理事を務めるHITO病院の篠原直樹DX推進室CXO（Chief Transformation Officer）は東京都内で10月11日に行われた設立総会の講演で「誰も行かないような林、森の中の道なき道を進んでいく」と決意表明。協会設立の背景、具体的な活動内容や今後特に力を入れていきたい点など、篠原事務局長・理事による事業概要説明の要旨を紹介する。

今、病院が転換点を迎えていることは間違いありません。デジタル技術の活用により病院を変革し、医療の質を向上させるとともに、病院自体のビジネスモデルも変えていくことも考えなければいけない時期にきています。地域において持続可能な医療を提供するためのエコシステムを構築する必要があります。

会員病院に対するアンケート結果によると、9割以上が情報共有の場を欲していました。「病院DXの具体例を知りたい」「どういう戦略でDXを進めるのかを学びたい」という要望が強く、今まではそのような場があるようではなかったと改めて思いました。

一方、企業側も同様で、医療現場の最新トレンドや課題を知り、新しいソリューションと一緒に開発していくことを望んでいます。本協会としては、皆さんと意見交